

学位授与番号：乙 3 1 8 1 号

氏 名：五十嵐 隆朗

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 29 年 3 月 8 日

学位論文名：

Use of BI-RADS-MRI descriptors for differentiation between mucinous carcinoma and fibroadenoma

学位論文名（翻訳）：

（BI-RADS-MRI 用語の因子を用いた乳腺の粘液癌と線維腺腫との鑑別）

学位審査委員長：教授 武山浩

学位審査委員：教授 鈴木正章 教授 秋葉直志

論 文 要 旨

論文提出者名	五十嵐 隆朗	指導教授名 福田 国彦
<p>主論文題名</p> <p>Use of BI-RADS-MRI descriptors for differentiation between mucinous carcinoma and fibroadenoma (BI-RADS-MRI用語の因子を用いた乳腺の粘液癌と線維腺腫との鑑別)</p> <p>Takao Igarashi, Hirokazu Ashida, Kazuhiko Morikawa, Kenji Motohashi, Kunihiko Fukuda.</p> <p>European Journal of Radiology, 2016 ; 85, 1092~1098.</p> <p>目的：純型粘液癌や純型粘液癌に類似した混合型粘液癌と線維腺腫との鑑別診断に有用な最新の BI-RADS MRI（第5版）用語の因子と非 BI-RADS MRI の因子を明らかにすること。</p> <p>対象と方法：本研究では 2008 年 10 月から 2014 年 7 月の間に施行された乳腺造影 MRI のうち、病理組織診断が得られた 27 人の純型粘液癌や純型粘液癌に類似した混合型粘液癌を有する患者と 22 人の線維腺腫を有する患者が対象となった。一人の放射線診断専門医が粘液癌と線維腺腫との鑑別に関係する BI-RADS MRI 用語の因子と非 BI-RADS MRI 因子を後方視的に評価し、単変量解析と多変量解析によって統計学的解析を行った。次に、単変量解析において病理組織診断結果と有意な相関を示した画像所見を用いて、臨床情報や病理組織診断を知らない3名の放射線診断専門医によって読影実験が行われた。個々の評価と3人の合議による最終評価を行い、読影成績と読影者間変動を受信者動作特性曲線解析と重み付けカッパ係数の算出によって決定した。同結果をもとに各所見の感度、特異度、正確率を算出した。</p> <p>結果：単変量解析において粘液癌には線維腺腫と比較してより高頻度に不整な辺縁、縁取り状の増強効果、後期相での不均一な増強効果、病変内部の増強効果を示す隔壁が認められた ($p < 0.05$)。線維腺腫には粘液癌と比較してより高頻度に整な辺縁、病変内部の増強効果の無い隔壁が認められた ($p < 0.05$)。多変量解析において最も有意な所見は後期相での病変内部の不均一な増強効果であった (OR, 45.7; 95%CI, 2.2706-918.06; $p < 0.05$)。読影実験において、不整な辺縁と後期相での病変内部の不均一な増強効果の組み合わせが最も高い感度 (96.3%) と正確率 (87.8%) を示した。病変内部の増強効果を示す隔壁は最も高い特異度を示した (90.9%)。粘液癌と線維腺腫との鑑別に関する読影実験の3者間のカッパ係数は 0.63-0.67 (実質的な一致) であった。</p> <p>結論：純型粘液癌や純型粘液癌に類似した混合型粘液癌と線維腺腫との鑑別診断に有意な所見は不整な辺縁、後期相での病変内部の不均一な増強効果、および病変内部の増強効果を示す隔壁であった。</p>		